

アイヌ施策推進地域計画 中間目標評価報告書

実施主体名	計画の名称	中間目標年度
北海道千歳市	千歳市アイヌ施策推進地域計画	令和3年度

1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における中間目標	目標値 A	実績値 B	達成率% B/A	備考
参加者数（担い手育成事業、イオル再生事業）	100人	117人	117%	
交流者数（アイヌ文化国際交流事業）	0人	0人	0%	事業休止
参加者数（アイヌ文化普及啓発事業）	50人	63人	126%	
生活館観光利用者数（アイヌ文化ツーリズム創出事業）	50人	15人	30%	
デジタルサイネージタッチ数（インフォメーション機能整備事業）	65万	95.4万	147%	
千歳水族館展示室利用者数（アイヌ文化ツーリズム創出事業）	12万人	13万人	108%	

アイヌ施策推進地域計画における中間目標	達成状況	備考
参加者数（担い手育成事業、イオル再生事業）	期待を上回った	
交流者数（アイヌ文化国際交流事業）		事業休止
参加者数（アイヌ文化普及啓発事業）	期待を上回った	
生活館観光利用者数（アイヌ文化ツーリズム創出事業）	期待を大きく下回った	
デジタルサイネージタッチ数（インフォメーション機能整備事業）	期待を大きく上回った	
千歳水族館展示室利用者数（アイヌ文化ツーリズム創出事業）	期待を上回った	

（コメント）

担い手育成事業として実施した「アイヌ語講座」及び「アイヌ手芸講座」は、募集定員が埋まる状況であり、市民の関心度は高かった。また、「チプ（丸木舟）の制作」及び「アイヌ文化継承講座」は、アイヌ協会等関係団体の多くの会員が参加して行われた。

アイヌ文化普及啓発事業として実施した「アイヌ文化セミナー」は、コロナの影響で直前にオンライン開催となったものの多くの市民参加があった。また、「史跡等見学会」は募集定員が埋まる状況であり、市民の関心度は高かった。

生活館観光利用者数は、コロナ禍で観光客の入込が落ち込む中、実績値が伸び悩んだ。

デジタルサイネージタッチ数は、コロナ禍で観光客の入込が落ち込む中ではあったが、特に「道の駅」におけるデジタルサイネージ利用者が多く、実績値が大きく伸びた。

千歳水族館展示室利用者数は、コロナ禍で入館者が落ち込む中ではあったが、アイヌ文化をテーマとしたイベントを開催したことによる効果もあり、実績値が伸びた。

2. 中間目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

事業の進捗状況	事業実施主体
「担い手育成事業」及び「イオル再生事業(チブ制作)」は、令和3年度から新たに取り組みはじめた事業であるが、期待を超える参加があるなど順調に進んでいる。	千歳アイヌ協会
事業の効果	
「アイヌ語講座」及び「アイヌ手芸講座」は、多くの市民等が参加し実施されたことから、アイヌ文化伝承活動のすそ野の拡大及び担い手の育成に繋がっている。また、「チブ(丸木舟)の制作」及び「アイヌ文化継承講座」は、関係団体の多くの会員等が参加して実施されたことから、チブ制作に関わる知識と技術の保存やチブサンケ(進水の儀式)をはじめとした儀礼作法の継承に繋がっている。	

事業の進捗状況	事業実施主体
「アイヌ文化国際交流事業」は、令和元年度に千歳アイヌ協会等一行が姉妹都市であるアラスカ州アンカレジ市を訪問し、「先住民族間交流」をスタートさせたが、その後、コロナの影響で事業を休止している。	千歳市
事業の効果	
令和元年度の訪問では、アラスカ先住民族の方々との意見交換を通して、現代社会で生活しながらも自らが先住民族であることと向き合い、民族の誇りを持ってより良い未来のために活動を続けている先住民族の状況を知ることができた。また、学校の視察をとおして、教育現場における先住民族政策の状況を確認することができ、交流に参加したアイヌ協会員が、今後、アイヌ文化の保存・振興に取り組むうえで大きな収穫を得た。	

事業の進捗状況	事業実施主体
「アイヌ文化普及啓発事業」は、令和3年度から新たに取り組みはじめた事業であるが、期待を超える参加があるなど順調に進んでいる。	千歳市
事業の効果	
「アイヌ文化セミナー」及び「史跡等見学会」に多くの市民参加があり、アイヌの歴史や文化に対する理解の促進及び普及啓発に繋がっている。	

事業の進捗状況	事業実施主体
「アイヌ文化ツーリズム創出事業」は、令和元年度からスタートし、蘭越生活館における観光客等の受入環境整備に取り組んでおり、案内板やパンフレットの整備など見学環境が徐々に整ってきている。	千歳市
事業の効果	
コロナ禍で全体の観光入込が落ち込む中、蘭越生活館の観光利用者数は目標値を大きく下回り、観光客への情報提供に繋がっていない。	

事業の進捗状況	事業実施主体
「インフォメーション機能整備事業」では、令和元年度に、新千歳空港国内線ターミナルビル内に2台、道の駅サーモンパーク千歳内に1台のデジタルサイネージを整備しており、アイヌ文化の伝承活動やウポポイまでの観光推奨ルートなどの情報発信を行っている。	千歳市
事業の効果	
コロナ禍で全体の観光入込が落ち込む中ではあったが、特に「道の駅」のデジタルサイネージ利用者数が多く、サイネージタッチ数が期待以上の実績となっており、市民をはじめ北海道内外の観光客等への情報発信に繋がっている。	

事業の進捗状況	事業実施主体
「アイヌ文化ツーリズム創出事業」では、令和2年度から令和3年度にかけてサケのふるさと千歳水族館内に、千歳のアイヌとサケ文化の繋がりなどを紹介する展示を整備している。	千歳市
事業の効果	
コロナ禍で全体の観光入込が落ち込む中ではあったが、アイヌ文化をテーマとしたイベント開催の効果などにより、千歳水族館展示室利用者数は期待以上の実績となっており、アイヌ民族や文化に対する来館者の理解促進に繋がっている。	

3. 今後の方針等

中間目標を達成できていないアイヌ文化国際交流事業の「交流者数」については、国内外の情勢を注視しながら事業を再開させ、目標の達成を目指す。

中間目標を達成できていない「生活館観光利用者数」については、生活館におけるアイヌ文化発信の効果が観光客に限定されるものではないことを考慮し、目標値の設定見直しを検討する。

中間目標の評価に当たりアイヌ協会等関係者から出された意見を踏まえ、より効果的な事業となるよう実施内容を再確認する。